

時習 九月号

九月 十六日

運動会練習、今が真つ最中!

団体演技の練習(一・二年生モンスター、三・四年生面浮立、五・六年生よさこいソーランとスタンツ)で頑張っています。また、応援練習も気合いが入ってきました。

どれも集団演技です。心を一つにしないとなかなか上手くできません。まだ、外での練習はしておりません。室内での基本の型や声の出し方を特訓中です。

この運動会で何が大切かということ、みんなが心一つにして頑張るといことです。結果の優勝よりも、この練習過程こそが尊いことです。まじめに取り組めば取り組むほど、優勝してもしなくても、その感動や喜びは大きいものです。特に心の成長が大きいものです。その反対に、気を抜いて、生半可な気持ちで、ニヤニヤしながら、だからだらしなくしてしまうと結果は想像がつかえます。怪我もしやすくなります。強い気持ちで、みんなが頑張ってくれることを期待しています。現在、応援練習は赤・青・黄の団長の指示のもと真剣に頑張っています。練習風景はホームページで随時発信していますのでご覧ください。



いずみ子ども会の様子

大会スローガンは、いずみ子ども会(児童会)で話し合いがなされ、今年の第六十四回運動会は、次のように決定されました。最後まで協力し合つて優勝目指してがんばろう!ご家庭でも励まします。お願いします。

【応援団長の声】

黄組団長(石永 花さ) 優勝目指して頑張ります。

青組団長(川内陽一くん) 優勝できるように頑張りたいです。

赤組団長(寺井龍生くん) どんなときでもあきらめないで優勝する。



九月十三日のインターネット記事で、静岡県のある小学校の運動会練習中に三十名近くが熱中症で搬送されるという記事が出ていました。入場行進の練習を始めて十五分後だったと言うことです。気温は十時頃で三十二度だったようです。幸いに軽度だったようです。特に**充分な睡眠と朝食**が関係しているようです。学校でも対策を取っていきますので朝の健康観察を充分にお願いします。(少し秋の空気が入っているのが助かります。)
『地下七百メートルと地上をつなぐ希望と愛』

『ミッション』 チリ落盤事故の記事より、先月五日、チリ鉱山で落盤が発生、鉱員三十三人が地下七百メートルの場所に閉じ込められた。こんな大事故にもかかわらず、二十二日に全員の生存を確認。立派なリーダーが指揮をとり、食糧の配分など団結して救助を待った結果だ。と報じた。「この五十三歳のリーダーの存在が特に大きいようです。この危機的場面で、みんなの意見を集約すると言うことはなく、この一人のリーダーが決断し、生存のプランを実行したことがこの奇跡を生んだと言ふことだそうです。この場面で、それぞれの意見を聞いていたならば、この集団は生き残れなかったという考えもあります。危機的場面では、たぶん人間は、自分のことだけを考えるのではないのでしょうか。この必死の場面で、地下七百メートルという想像を絶する場所で、リーダーは全員の生存というミッションに取り組んだのです。少ししかない食料を均等に分け、寝る場所をそれぞれに確保し、またいつ落盤が起こるかかわからない状況で、監視を二名ずつ交替でたて、冷静に着実に状況を判断し、生存のプランを実行していたです。この冷静な判断力には頭が下がります。因みに、地下にいる作業員の奥さんに女児が生まれたとか、そして女の子の名前が「エスペランサ(希望)」と名付けられたと聞きます。まさに希望が叶い、全員無事救出を祈らざるを得ません。